

第47回通常総会開催 2

5月22日、会員120名余の出席を得て第47回通常総会を開催。

総会終了後の役付理事選任理事会にて、副会長1名、専務理事1名、常任理事6名が新たに選任されました。

平成27年度（第48期）事業計画大綱 3

黄瀬前専務理事退任ご挨拶 4



正副会長会員企業訪問 4

服部重彦会長・天野嘉一副会長が会員企業である日本たばこ産業㈱関西工場（工場長：伊熊浩之氏）と㈱大日本科研（社長：岡本光三氏）を訪問し、工場の見学と懇談を行いました。

会員企業優秀従業員定例表彰 5

5月12日、京都工業会館にて表彰式を挙行。

会員企業より推薦された58氏（46社）が優秀従業員として表彰されました。

新連載 会員企業トップにインタビュー 6

“納得できないものは出荷するな”



第1回目は、長島精工㈱（宇治市）に長島善之会長・長島基社長を訪問し、創業時のご苦労やものづくり・ひとつづくり等についてお話を伺いました。

（左：長島善之 会長 右：長島 基 社長）

白鷺クラブ「米国産業視察団」報告 7

若手経営者グループ・白鷺クラブでは3年振りとなる海外産業視察団を米国へ派遣。

変化が目覚ましい米国の経済の実情について学び、理解を深めてきました。

鳶の会・白鷺クラブ 定期総会開催 7

白鷺クラブのO B会である鳶の会と白鷺クラブ合同で定期総会を開催し、新役員の選任、新年度事業計画が承認されました。

案内 タイ・ベトナム産業視察団 8

京都工業クラブ開催 計報 8

業務革新研究会活動スタート 9

本会基幹事業の1つである業務革新研究会（8研究会）が4月24日総合オリエンテーションを開催し、今年度の活動をスタートしました。今回より、研究会活動内容も随時紹介していきます。

新連載 競争的資金活用入門（第1回） 10

国や京都府などによる研究費や販路開拓費等、様々な経費を財政支援する競争的資金の活用についてご紹介します。ぜひご活用下さい。第1回は京都府 西村ものづくり振興課長が制度の概要を説明します。

第47回 通常総会を開催

5 / 22

5月22日（金）、京都東急ホテルにおいて、第47回通常総会が、会員120名余の出席得て盛大に開催された。

服部重彦会長が開会挨拶を行った後、議長に選任され、議事に入った。

当日の議案は次の通り。

第1号議案：第47期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
事業報告及び収支決算の承認の件

第2号議案：第48期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）
事業計画及び収支予算の報告の件

第3号議案：役員の選任の件

第4号議案：京都経済センター（仮称）への対応

第5号議案：常勤の理事の年間報酬総額の決定の件

第1号議案については、黄瀬専務理事が事業報告全般及び収支決算について説明。続いて、総務委員会・井形彰利委員長、企画委員会・広岡義雄委員長、技術・教育委員会・太田 稔委員長、中堅企業委員会・尾池 均委員長、中小企業委員会・岡本光三委員長、環境委員会・尾崎満彦委員長、広報委員会・西山昌樹委員長より、各委員会の開催した事業について説明が行われた。続いて監事4名を代表して澤田守成監事から会計監査の報告がなされ、全員異議なく原案通り満場一致で承認された。

第2号議案については、専務理事が主要な事業計画及び収支予算についての説明を行い、全員異議なく原案通り満場一致で承認された。

第3号議案については、その選任方法について諂ったところ議長一任ということで承認され、理事8名を役員候補者として提案、全員異議なく承認された。



挨拶
服部重彦京都工業会会長



祝辞
関總一郎近畿経済産業局長



祝辞
山田啓二京都府知事



祝辞
門川大作京都市長



乾杯
隆京都工業会副会長



懇親交流会風景



閉会挨拶
依田 誠京都工業会副会長



有馬 透 新専務理事 就任挨拶
重要な時期に大任を引き継ぐことになりました。
京都工業会の素晴らしい伝統を大切に受け継ぎ、次の時代への発展に力を尽くしたいと思います。

平成27年度（第48期）事業計画大綱

基本理念：—21世紀を担うモノづくり集団—
京都から モノづくりイノベーション

（1）会員相互の緊密な結びつきと交流を促進する

- ★1) 会員拡大運動の推進年間
- 2) 新春交歓会の開催定例
- 3) 京都工業クラブ、鳶の会、白鷺クラブの開催各12回／年
- 4) 他府県産業界の視察と交流1回／年
- 5) 委員会活動の推進と連携年間

（2）モノづくりを支える多角的な人材育成の強化・技術の継承を推進する

- 1) 京都高等技術・経営学院の内容の充実研究科2コース／年

ア. 電子システム研究科
イ. メカトロニクス研究科

- 2) 生産管理・技術等研究会内容の充実強化年間
- ア. 経営管理懇話会（7懇話会）の開催
- イ. 業務革新研究会（9研究会）の開催
- ウ. 技術・情報管理研究会（9研究会）の開催

★エ. 生産革新（TPS）徹底実践研究会の開催

- 3) 技術開発支援強化随時
- ア. テクノロジー＆マネジメント研究会の開催13回／年
- イ. REACH対応特別研究会の開催2回／年
- 4) セミナー・工場見学会の開催随時
- ア. 生産革新工場見学会の開催4回／年
- イ. 技能伝承セミナーの開催1回／年
- ウ. 開発設計ソリューション見学会の開催5回／年

★エ. モノづくり革新道場の充実及び特別合宿研修会の開催5回／年

- ★5) 新入社員等若手社員を対象とする「モノづくりベーシック講座」の開設随時

- ★6) 女性の活躍による企業活力強化のための支援随時

ア. 良いモノづくりのための女性の会の強化4回／年

イ. 女性幹部の会の発足随時

（3）新たな産学公連携の強化による新産業・新事業の創出をはかる

- 1) 京都産学公連携フォーラムの開催1回／年
- 2) 京都産学公連携機構との連携年間
- 3) 産学連携マッチング交流会の開催随時
- 4) iPS等再生医療関連産業の育成年間

（4）経営グローバル化による新産業・新事業の創出をはかる

- ★1) 「2015タイ・ベトナム産業視察団」の派遣1回／年
- ★2) 「2015白鷺クラブ・米国産業視察団」の派遣1回／年

3) 東南アジアビジネス展開支援事業の開催3回／年

- ★4) 「ジェトロ京都貿易投資情報センター」との連携による海外展開支援随時
- 5) 海外企業及び経済団体との交流随時

（5）経営革新の研究・追究によりビジネスチャンスの創出をはかる

- 1) 生産革新工場見学会の開催（再掲）4回／年
- 2) 2015中小企業見学会の開催5回／年
- 3) 中小企業技術幹部交流会の開催5回／年
- 4) 京都ハイブリッドテクノロジーネット事業の実施3回／年

- ★5) 高付加価値経営事例の研究随時

- ★6) 円安基調による生産の国内回帰傾向への対応随時

（6）各種の環境事業を通して、地域・地球環境保全と共に企業経営貢献性の向上をはかる

- 1) 京都環境管理研究会の開催7回／年
- 2) 労働安全衛生研究懇話会の開催7回／年
- 3) 環境マネジメントシステム（ISO14001及びKES）の推進年間

- 4) 環境関連課題の動向調査と研究年間

- ★5) 京都工業会館内環境関連3団体との協働年間

- ★6) 京都経済4団体共同事業－環境問題に関する講演・セミナー等の開催1回／年

（7）地域産業活性化事業への参画と協調をはかる

- 1) 京都経済団体協議会との協調随時
- 2) 府内・外関係経済団体との協調随時
- 3) 国・京都府・京都市等関係行政機関との情報交換と協調随時

- 4) 京都産業育成コンソーシアムへの参画随時

- 5) 京都産学公連携機構との連携（再掲）随時

- 6) 京都産業エコ・エネルギー推進機構との協調（再掲）随時

- 7) 京都経済センター建設検討委員会への参画随時

- 8) 北部地域でのセミナーの開催随時

- 9) 青少年と科学の会への支援及び京のエジソンプログラムの推進随時

（8）広報・会員サービス事業の推進をはかる

- 1) 会員企業優秀従業員の会長表彰1回／年

- 2) 京都工業会ニュースの発行4回／年

- 3) 景況等に関する調査・報告随時

- 4) 要望活動随時

- 5) 会員カタログコーナーの設置年間

- 6) 各種表彰推薦随時

- 7) 会員名簿・要覧の発行1回／年

（9）京都工業会館の円滑な運営と有効活用をはかる年間

★ 新規事業、または一部新規事業

◆正副会長の会員企業訪問レポート◆

4 / 22

日本たばこ産業(株)関西工場 (伏見区)



日本たばこ産業関西工場

となっている。工場内では、今年度期首で486名が働いており、現場主動による改善提案活動が推進されている。社員から提出される改善提案は、昨年1年間で、15,940件に上るとの説明を受けた服部会長からは、件数を再確認されるほどで、社員の改善意識の高さがうかがわれた。また、独自のRGPDCAシステムにより、徹底した品質管理が行われており、工場内は清潔に保たれており、たばこの香りもしないほど、空気も清浄に感じられた。今年度407億本を製造する予定。

当日は、伊熊浩之工場長（本会理事）の案内により、ドイツやイタリヤ製の機械による高速でたばこを巻き上げ、箱詰めする生産ラインを視察させて頂き、出荷に当たっての厳しい品質検査の状況についても見学。天野副会長からは、検査基準についての質問があり、モノづくりへの細心の注意とこだわりの技術に感銘を受け、多くの社員に見送られながら同社を後にした。

わが国で製造されるたばこは、100銘柄ほどあり、全国4工場で年間約1,200億本が製造されている。そのうち関西工場では約3分の1の本数

を製造。主力工場

(株)大日本科研 (向日市)



大日本科研

有機ELやLED、タッチパネル等の製造用精密露光機をはじめ、電子業界向けの各種自動化機器や検査機等、オプトメカトロニクス分野における精密機械の開発メーカーである。独自の技術により、わが国をはじめ中国、東南アジア各国のメーカーから高い評価を得ている。

半導体やMEMS、プリント基板製造工程における露光技術は、フォトマスクを使用して、それを基板に転写する様式が主流の中、DMD（デジタル・マイクロ・デバイス）を用いた独自の方式でCADデータから直接パターンを露光することができる同社のマスクレス露光装置は、1ミクロン以下の露光精度を実現した。これにより試作開発が容易になり、時間・コストの削減に貢献することができる。この技術は高く評価され、近畿経済産業局が実施する「関西ものづくり新撰2015」に選ばれている。

今回の訪問では、岡本光三社長（本会常任理事・中小企業委員長）の案内により社員の方がパソコン上で設計する様子や装置が実際に基板上に露光転写する状況を視察させて頂いた。見学中に製造されていたのは、1台約2億円の装置で、精度の高さとスピードに、参加者から驚嘆の声があがつた。

「退任のご挨拶」



このたび京都工業会の専務理事を退任することとなりました。正副会長をはじめ役員、会員の皆さま方にはたいへんお世話になりありがとうございました。

6年前の2009年5月の通常総会において5代目の専務理事として選任をいただき、業務に携わってきました。矢嶋前会長・服部会長の補佐役として、また工業会の日常業務の執行責任者として、工業会のため、会員企業のために重責を担っていましたが、役割を十分に果たし終えたかどうかは分かりません。

ただ、自分なりにいくつかの思い出となるものを挙げてみますと、まず、「公益社団法人への移行」があります。新定款の作成や申請にあたっての諸調整にあしかけ3年を要しましたが、知事の認定を得て、平成24年に移行登記を行いました。公益法人としての直接的効果は測りがたいものではありますが、この数年間の行政・諸団体との関係、第三者からの声等を考えればその効果は少なくなかったのではないかと思っています。

もう一つの大きなエポックメイキングなことは、「会

前専務理事 黄瀬 謙治

員拡大」です。平成25年度を強化年度として集中的に取り組み、役員企業をはじめとして多くの推薦をいただいた結果、工業会の歴史上初めて300を超える会員数となり、大学や金融機関も特別会員として加入いただき、組織基盤と財政基盤の充実に寄与したのではないかと考えています。

そのほか、いくつかの新規事業への挑戦、時代潮流を踏まえた関係諸機関との連携、世代交代を踏まえた事務局体制の整備等に取り組んでまいりました。

現在の最大の課題は京都経済センター（仮称）への対応であり、移転・入居に向け、またその後の運営について今後精緻な検討が必要とされます。現在の工業会館は、ものづくり集団の活動拠点として半世紀にわたってこの西京極の地において存在感を示してきました。当時創設に尽力された先人のことを思うとこの地を去ることについては申し訳ないという気持ちがないと言えば嘘になります。

しかし、平成も四半世紀を過ぎ、新しい時代の、新しい京都工業会としてステップアップしていくことも必要です。これから京都工業会の発展を期待し、最後にもう一度すべての皆さんに感謝をして筆を置きます。

平成27年度 会員企業優秀従業員定例表彰

～58氏を表彰～

5 / 12

5月12日（火）午後、平成27度優秀従業員定例表彰が、京都工業会館にて行われた。

まず、服部重彦会長より式辞が述べられた後、受賞者全員の名前が読み上げられ、そして受賞者58氏（46社）を代表して、波多野嘉和氏（日東精工株）へ服部会長から表彰状と記念品が授与された。

続いて、来賓の京都府商工労働観光部 特区推進監 鈴木一弥氏、京都市産業戦略監 白須 正氏より祝辞をいただいた後、受賞者代表として平尾 充氏（株片岡製作所）が謝辞を述べた。そして最後に、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。



〈受賞者名〉

（以下敬称略）

（株）イシダ	福田 弘和	島津エンジニアリング（株）	横井 俊光	日新電機（株）	可児 修
尾池工業（株）	稻守 忠広	島津システムソリューションズ（株）	松田 有弘	日東精工（株）	波多野嘉和
大阪ガス㈱京滋エネルギー営業部	長尾 恵	（株）島津製作所	佐野 薫	日東薬品工業（株）	中條 幹夫
（株）力シフジ	熊谷文男	（株）島津製作所	内藤庄三	光アスコン（株）	岩崎 浩
（株）片岡製作所	平尾 充	須河車体（株）	由良 淳	光アスコン（株）	勝島和彦
（株）関西電業社	有田康幸	菅原精機（株）	馬籠幸則	福田金属箔粉工業（株）	木田 孝司
（株）菊水製作所	村林秀樹	星和電機（株）	茂木貴司	福田金属箔粉工業（株）	山本 保
京セラ（株）	上野晴司	太平工業（株）	湊 泰志	（株）平安製作所	吉川 登
京セラ（株）	佐川憲司	太陽機械工業（株）	谷 憲二	（株）堀場製作所	吉谷泰之
京都機械工具（株）	田渕政人	太陽精機（株）	大藪祐之	三菱自動車工業㈱パワートレイン製作所	高田秀生
クロイ電機（株）	浜家一人	太陽精機（株）	菅原正記	三菱自動車工業㈱パワートレイン製作所	星原健二
月桂冠（株）	小林亜矢美	（株）大日本科研	山本芳行	（株）宮木電機製作所	福田敏明
（株）工進	谷中宣久	トクデン（株）	山岸正嗣	村田機械（株）	杉本晴彦
サンコール（株）	木村勝明	TOWA（株）	喜多 仁	村田機械（株）	古田和孝
サンコール（株）	三重生昌浩	TOWA（株）	北村政宏	明光精器（株）	井上義博
（株）最上インクス	山本康之	（株）藤堂製作所	里見博基	（株）ユーシン精機	新井裕之
（株）佐藤製作所	上田浩史	（株）富永製作所	野々村 司	（株）ユーシン精機	西川義行
三和化工（株）	浦井俊幸	（株）日進製作所	井上莊作	㈱タヨーアクリス（京都府金属プレス工業会）	藤村俊明
三和研磨工業（株）	藤澤亮	（株）日進製作所	渡邊宏子		
（株）G.S.ユアサ	山崎功二	日新電機（株）	蘆田 望		

■会員企業トップにインタビュー

超高精度の手仕事継承でニッチの中のニッチを拓く

長島精工(株)

会長 長島善之氏・社長 長島 基氏

長島精工株プロフィール

超精密研削盤のトップメーカー。
唯一の「三面摺りによるキサゲ加工」で
世界一の精度を創りだす。
資本金：1,000万円 従業員：46名

—創業当時の苦労話などを…

(長島会長) 大企業を飛び出して、1973年に宇治市槇島で創業しました。

石油ショックの時で、長男（現在の社長）が生まれたばかりでしたので、今から思えば無知で無謀でした。最初は一人で、その後4人ほどで部品製造の下請けを始めました。毎日徹夜の連続、休みなしで働きました。

やがて設計製造までするようになりましたが、在庫や不良品等のリスクが増え、楽になることはありませんでした。そこで納得できる自分の製品を作りたくて、メーカーをめざすことにしましたが、それも新たな苦労の始まりでした。

昼は従来の下請けの仕事をやり、夜に図面を書きました。小規模メーカーは、悪い時は売り上げがゼロになりますので、必死で営業に回りました。メーカーになることは、あまり他人には勧められませんね。（笑）

—技能の継承や人づくりはどのように？

(同) 新人にはまず受験料は自己持ちで技能検定に挑戦してもらいます。合格すれば会社が負担しますし、毎月の手当も出るようになっています。

先輩にはできるだけ受験の仕方などは教えないように言っています。要領だけで合格しても、本物の技能士にはなれないからです。自分で悩んで、考えることが大切だと思っています。

—「ものづくり」への強いこだわりをお持ちですね。

(同) 「技術や技能に関して人がやった仕事を信じるな！」と言っています。

一つの製品は多くの人間が共同して作りますが、不具合も発生します。それは全体の責任です。他人のやった仕事についても、きちんと自分の目で確認するように言っています。

また、「納得できないものは出荷するな！」ということを会社の方針にしています。納期を守ることは当然のことですが、それ以上に品質を確保して、いいものを納めることが大事だと思っています。

—機械でまねできない人間の感覚も大切ですか？

(同) 確かに最終的な精度は、人間でなければできないところがあります。一応、測定器で計測しますが、機械の持っている許容範囲に規定されますので、究極の精度を出すには、やはり手作業でやっていくことが必要だと



考えています。わが社では、マザーマシンを作るつもりで、手作業で精度を出すことを追及しています。

—早くから中国にも進出されました…

(同) 早い時期から中国に出ていましたが、最近は金儲けが前面に出る場合が多くなってきましたので、今は合弁会社にして、経営権は現地側に持たせてやっています。配当だけもらう方が気が楽です。

客本位の日本の考え方との違いなどで苦労されている進出企業も多いと思います。

—立派な後継者が育っておられますね。

(同) 長男は初めは事業を継ぐつもりはなかったようですが、従業員を守ることはとても大きな社会的意義があるということ、自分にしかできないことをやってみてはどうかということなどをじっくり話す中で、その気になってくれたみたいです。

しかし、社内で実力を認められなければ、社長業は難しいので、社内では未知の分野で一級技能士の資格を取得するとともに、貿易実務や経営改革など、私もかなわないところで頑張ってくれています。人知れず努力を重ねてきたのだろうと思っています。

—最後に、社長さんに、今後の抱負をお願いします。

(長島社長) 世の中になくてはならないもの、今までに作られていないものを、手仕上げで作り上げ、わが社でしか作れないものを世の中に出していくみたい。

現在、ほとんどが質の高いものを求める国内のお客さん向けです。これから海外にも目を向けていこうと思っていますが、あくまでも「いいもの」をつくりしていく「ものづくり」を追及していきたいと思っています。

※今後、会員企業トップへの訪問インタビューを行い、順次本ニュースに掲載していく予定です。乞うご期待。

白鷺クラブ

2015 米国産業視察団を派遣

6 / 6~14

若手経営者グループ・白鷺クラブでは3年振りとなる海外産業視察団を、航空宇宙産業やIT産業等で強力な競争力を維持し、産業や社会の構造変化のうねりが目覚ましい超経済大国・米国へ派遣いたしました。(団長:古澤志津夫 三幸総研社長、団員総数15名)

6月6日からニューヨーク、ワシントン、ヒューストン、ロサンゼルス、サンフランシスコの各都市の産業動向を中心に視察を重ねる中で、成長見通しが上方修正された唯一の主要国、そして金利が上昇するものの、原油価格低下が内需を支え、そして緩和的な金融政策が持続することから3%成長も視野に入りつつある米国経済の実情への理解を深め、9日間の日程を終え、6月14日無事帰国しました。

(※視察詳細は報告書にとりまとめましたので、本紙では旅程のみ掲載させていただきます。)



島津プレシジョンインスツルメンツ社



三菱キャタピラフォークリフト社

6月6日 (土)
 (14:15) 伊丹空港発 (NH2178)
 (15:35) 成田空港着
 (17:00) 成田空港発 (UA078)
 (17:05) ニューヨーク着
 6月7日 (日)
 終日、ニューヨーク市内視察
 6月8日 (月)
 午前 KPMG社 USジャパン・プラクティス
 米国統括パートナー 森 和孝氏 レクチュア
 午後 ジェトロ ニューヨークオフィス
 ディレクター 前中康志氏 レクチュア
 ニューヨークからボルチモア経由、ワシントンへ移動
 6月9日 (火)
 ワシントン市内視察後、ヒューストンへ移動
 6月10日 (水)
 午前 ジョンソン宇宙センター視察
 午後 三菱キャタピラフォークリフト社訪問
 6月11日 (木)
 午前 ヒューストンからロサンゼルスへ移動
 午後 島津プレシジョンインスツルメンツ社訪問
 6月12日 (金)
 午前 ロサンゼルス市内産業施設
 午後 ロサンゼルスからサンフランシスコへ移動
 6月13日 (土)
 (11:25) サンフランシスコ発 (UA035)
 6月14日 (日)
 (15:00) 関西空港着

鳶の会・白鷺クラブ

平成27年度 定期総会を開催

4 / 9

4月9日夕刻、鳶の会・白鷺クラブの平成27年度定期総会に両会員34名が出席し、東山区の「翠雲苑」において開催された。

平成26年度の活動報告、平成27年度役員の選任、更には同年度の事業計画について討議を行い、全ての議案について承認された。

〈平成27年度役員〉



新代表幹事：
古澤 志津夫君
(三幸総研・社長)



新代表幹事：
丸山 栄三君
(丸山製作所・社長)

幹事：坂 栄孝君
(坂製作所・社長)

△：片岡 宏也君
(片岡製作所・取締役)

△：田中 安隆君
(積進・専務取締役)

第577回 京都工業クラブ

4/17

「日本経済の現状と展望」

日本銀行 京都支店長 鎌田 沢一郎氏

円安株高が続き、賃金引上げが報道される中、景気の本格的回復に関心が高まっていることから、日本銀行京都支店・鎌田支店長をお招きし、景気の現状と先行き、最近の金融政策、中長期的な課題等についてご講演をいただいた。



第578回 京都工業クラブ

5/15

新・NHK京都放送局訪問

本年2月に移転オープンしたNHK京都放送局を訪問し、実際のスタジオや、最新の機器を備えた局内を見学した。1階エントランスホールでは「8Kスーパーハイビジョン」の超高精細映像が大型マルチモニターで上映され、臨場感溢れる映像を楽しむことができた。



第579回 京都工業クラブ

6/19

「水素エネルギーが開く未来」

大阪ガス(株) 技術顧問

京都工芸繊維大学 長持ちの科学センター 特任教授

久米 辰雄氏

最近、新たなクリーンエネルギーとして水素エネルギーに対する関心が高まっていることから、京都工芸繊維大学で特任教授を務める大阪ガスの久米技術顧問をお招きし、水素エネルギーがどのように社会を変えていくのか、また日本が推進する意義等についてご講演をいただいた。



訃報

荒堀 正義氏 (京和ブロンズ(株) 創業者・相談役)

6月13日、ご逝去されました。(享年87歳)

岩田 聰氏 (任天堂(株) 社長)

7月11日、ご逝去されました。(享年55歳)



堀場 雅夫氏

(株堀場製作所 創業者・最高顧問)

(昭和47年5月～平成18年5月まで)
本会常任理事

7月14日、ご逝去されました。
(享年90歳)

ここに、会員各位とともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

予告ご案内

◆メコン経済圏発展の重要拠点を訪ねる◆

2015 タイ・ベトナム産業視察団

チャイナプラスワンの中心的役割を果たし、今やタイプラスワンとまで言われる程に発展を遂げるタイ。また市場としても大きな注目を集め、市場に近い生産拠点として、ますます発展を続けるベトナム。メコン地域東西経済回廊で結ばれ、東南アジアでのビジネス展開で重要な地位を占めるタイとベトナムに、今年度の産業視察団を派遣することになりました。

奮ってご参加くださいますようご案内します。

【視察国】 タイ、ベトナム

【日 程】 10月5日(月)～11日(日) <7日間>

【団 長】 京都工業会 会長 服部重彦
(株島津製作所 相談役)

【参加者】 約20名

月日 (曜日)	地名	日 程
10/5 (月)	関西空港 バンコク	関西空港集合 空路バンコクへ
10/6 (火)	バンコク	日系企業現地法人視察
10/7 (水)	バンコク ホーチミン	ジェトロバンコク事務所長と懇談 現地企業訪問 バンコク市内視察 空路ホーチミンへ
10/8 (木)	ホーチミン	ホーチミン市長表敬訪問 ジェトロホーチミン事務所長と懇談 日系企業及び現地企業訪問
10/9 (金)	ビンズン省	「ニューシティ」等視察 日系企業及び現地企業訪問
10/10 (土)	ホーチミン バンコク	メコン川クルーズ、名物料理の昼食 ホーチミン市内視察 空路、バンコク経由帰国途へ
10/11 (日)	関西空港	到着後、解散

◆平成27年度 他府県産業視察◆

「神奈川県」産業視察ご案内

今回、ICTを基盤に、環境・エネルギー、交通システムなどインフラを整備し、人々が快適に暮らすことができるスマートシティの先進事例「Fujisawa SST (サステナブル・スマート・タウン)」を訪問し、今後の地域社会とそれを支える技術について学ぶことにしました。多数のご参加をお願いします。

【日程】 11月27日(金) 12:00～19:30
(JR新幹線「新横浜」集合・解散)

【内容】 Fujisawa SST (藤沢市) 視察

パナソニックが中心となり開発を進める最終目標
1000世帯のスマートシティ(現在、300世帯が入居)。

その他、工場見学及び懇親会

業務革新研究会(8研究会)が総勢 251名で発足、活動スタート!

～総合オリエンテーション(4/23)を経て、5月例会を開催～

総合オリエンテーション

4月23日、12時から「技術・教育委員会と各研究会の正副主査との懇談会」を開催、研究会の運営方法や正副主査の役割などについて、意見を交換した。

その後、13時30分より京都工業会館 4F-講堂に総勢251名が一堂に会し、総合オリエンテーションを開催した。

冒頭、技術・教育委員会 委員長 太田 稔氏(日新電機㈱人材開発部主幹)が、「今こそ、他社事例やアドバイザーの講義、演習、実習などから各自の業務革新能力を磨き、新たな社内ベンチマーク化へのヒントを持ち帰って欲しい」と挨拶。

続いて研究会活動を行うまでの基本事項を確認後、当研究会事業のOBでもあるオムロンシステムソリューションズ㈱主事 岩井伸明氏が「これからモノづくりに求められること」と題して講演、その後、8研究会は、それぞれに分かれ、年度方針の検討を行った。

〈各研究会の正副主査名〉

NO	研究会名	正副主査名・社名
1	品質革新 (44名)	福田忠司(㈱堀場エスティック) 人見将宏(㈱NHVコーポレーション) 吉安潤(シーシーエス㈱)
2	生産管理 (34名)	野田武人(㈱イシダ) 浅野聰(日本新薬㈱) 村田智之(シーシーエス㈱)
3	購買調達革新 (28名)	谷口典宏(星和電機㈱) 北尾陽一(㈱島津製作所) 守田正人(日東精工㈱)
4	生産革新基礎E部会 (41名)	花井貴士(日新電機㈱) 寒川将次(村田機械㈱) 宮永真介(ニチユ三菱フォーラクリフト㈱)
5	生産革新:JIT改善部会 (31名)	後藤雅也(㈱島津製作所) 姫野文明(㈱ニチダイ) 熊谷章(㈱村田製作所)
6	VE (20名)	林麻咲美(オムロンソーシャルリューションズ㈱) 南部壮志(関西尾池工業㈱) 福元康人(TOWA㈱)
7	生産現場リーダー力強化 (36名)	高岡照郷(日本機材㈱) 湯浅貢一(㈱島津製作所) 西本寛石(田中精工㈱)
8	TPM (17名)	本多弘幸(京都機械工具㈱) 岡本謙一(ニチコン㈱) 宇野真充(㈱モリタ製作所)



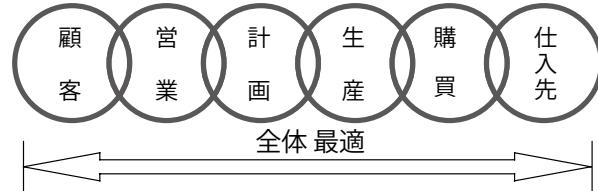
総合オリエンテーション

5月例会を順次開催

総合オリエンテーションにおいて発足した各研究会は、GW明けから順次5月例会をスタートし、各アドバイザーを迎え、それぞれ基調講演やそれに基づく活発なグループ討議等が行われた。以下、特長的な講演内容の一部を記す。

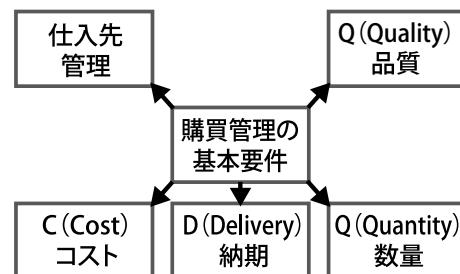
[生産管理(TOC)研究会]

高橋浩史アドバイザー(日新電機㈱情報システム部長)が、「需給変動が当たり前の今日、売り方が決まらなければ作り方も決まらない。従って、生産管理部門は、部門間連携(全員のベクトル合わせ)による売り方に合わせた生産や調達のあり方を追求し、全体最適を志向せねばならない。また、その業務を支援するための基幹システム(ERP等)の革新も求められている」と講演した。



[購買調達革新研究会]

北村繁一アドバイザー(元オムロンロジスティッククリエイツ㈱取締役)が、「企業のグローバル競争が激化する今日、購買、資材、調達部門には、購買計画の立案、仕入先開拓と選定、取引契約締結及び発注管理、コスト管理、コストダウン活動、納期管理、リスク管理(BCP)等、企業におけるいわばプロフィットセンターとしての役割が求められている」と講演した。



競争的資金活用入門

京都府商工労働観光部
ものづくり振興課長 西村 敏弘

■競争的資金とは

競争的資金とは、国の科学技術基本計画で、「資源分配主体が広く研究開発課題等を募り、提案された課題の中から、専門家を含む複数の者による科学的・技術的な観点を中心とした評価に基づいて実施すべき課題を採択し、研究者等に配分する研究開発資金」と定義されています。行政の科学技術や産業振興の政策議論の中で、制度改善や拡充に向けてよく話題になる施策です。

近年は、国や京都府などの自治体でも、このような方法による支援事業が多数あり、提案を募り、制度の趣旨に最も合致したものに対して、研究費や販路開拓費など、企業や大学が必要とする様々な経費を財政支援する手法全般を、競争的資金と理解してもらえば良いと思います。

■活用のメリットは

様々な趣旨、団体による競争的資金制度があり、活用のメリットも様々ですが、やはり、成否が予測しにくく、リスクマネーという点で、研究開発費に活用されるケースが多いようです。ただし、競争的資金ですから、応募すれば必ず採択されるというわけではありません。

私もこれまでに様々な企業の申請支援をしてきましたが、残念ながら不採択になったこともあります。それでもメリットがあると感じるのは、関係者が集まって、議論をして、その結果を提案書にまとめるプロセスそのものに価値があるからだと思います。

ついつい日常の業務に忙殺されてしまい、「皆も忙しいから」という思いから、意外と社内でも十分に議論する時間も機会もなく、ましてや第三者に自社の事業計画を聞いてもらう、提案する、そのためにわかりやすく説明する言葉を徹底的に考える、などの機会は案外少ないものです。また、同じ目的をもって関係者と努力する過程で、いろいろ他者の知恵を知ったり、人脈が広がったりすることも多々あります。

めでたく採択になった場合は、金銭的なメリットも勿論ありますが、実際に事業を執行し、いろいろな経験を通じて得られることによる人材育成面でのメリットも大きいと思います。数百万円程度のプロジェクトでも、新たなことにチャレンジし、日常的に、研究の状況やビジネス面の進捗、予算の執行状況などを管理し、報告書をまとめる、という作業経験を通じて、若い技術者の方が、プロジェクトが始まった時とは顔つきが変わるくらいに成長されたケースもありました。また、(公財)京都産業21の制度では、経験豊富なコーディネータによる伴走支援がありますが、支援を受けることを通じて、様々な出会いや多くの事例から学んだノウハウを吸収することもできます。

このように資金面以外の、人材育成や人的ネットワークの拡大などのメリットもいろいろあると思います。

■活用するには

競争的資金制度は、国連では、経済産業省、文部科学省、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などが代表的な例ですが、近年は国土交通省、農林水産省、厚生労働省も含めて、大抵の省庁で行われています。また、勿論、京都府、(公財) 京都産業21でも多数の支援事業を行っており、地元自治体ならではの地域密着型の伴走支援をモットーに、研究開発費や設備投資、販路開拓などに係る補助制度を実施しています。

競争的資金などの支援制度の活用については、多数の実施団体と多数の趣旨の制度が存在するため、最初に何をすればいいのか、どこにアクセスすればよいのか、迷われる方も多いと思います。また、各企業の業態・ビジネスモデルや、何をどのような体制で取り組みたいのか、などによっても変わってきますので、まずは、(公財) 京都産業21（総合相談窓口：075-315-8660）に相談されることをお勧めします。

なお、競争的資金制度により公的資金の支援を受けた場合に、「知財など成果の帰属はどこになるのか」という質問をよくきますが、現在は、産業技術力強化法などにより、企業に帰属するケースが大半です。（実際に活用する場合には個々の制度によりますので募集要領等により事前確認を必ずしてください。）

また、一般的に応募受付期間は、毎年2月～7月の間で設定されるケースが多く、情報はインターネットで容易に入手できます。例えば京都産業公連携機構のホームページ（「競争的研究資金情報」）や、無料のメールマガジンでは、同機構が主催する国、京都府、京都市などの支援事業に係る合同説明会の情報も得られます。また、各制度の実施団体でも過去の採択テーマが公開されているケースも多く、自社の考えているテーマがこれから応募しようとする競争的資金制度の求めている趣旨、目的に沿ったテーマかどうかを判断する上でも有用です。

■おわりに

競争的資金制度は、前述のように、多数の実施団体と多数の趣旨の制度が存在するため、万人向けの入門的制度というのではなく、個々の企業によって活用目的も千差万別だと思います。また、初めての方にとっては、募集要領に見慣れない法律用語や会計上の専門用語も記載されていると、敷居が高くわかりにくく感じるかもしれません。ただし、一度経験すれば、さほど難しいものではなく、京都府、(公財) 京都産業21も申請に向けてサポートを行っています。新たな試みの一つとして一度活用してみてはいかがでしょうか。

〈事務局より〉

- ・同制度の応募受付期間は2月～7月で設定されることが多いとのことですので、今からのご相談・ご準備をお勧めいたします。
- ・次回は、実際に活用された企業の体験談をご紹介する予定です。

京都工業会ニュース No.383

2015年7月24日発行

発行 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp